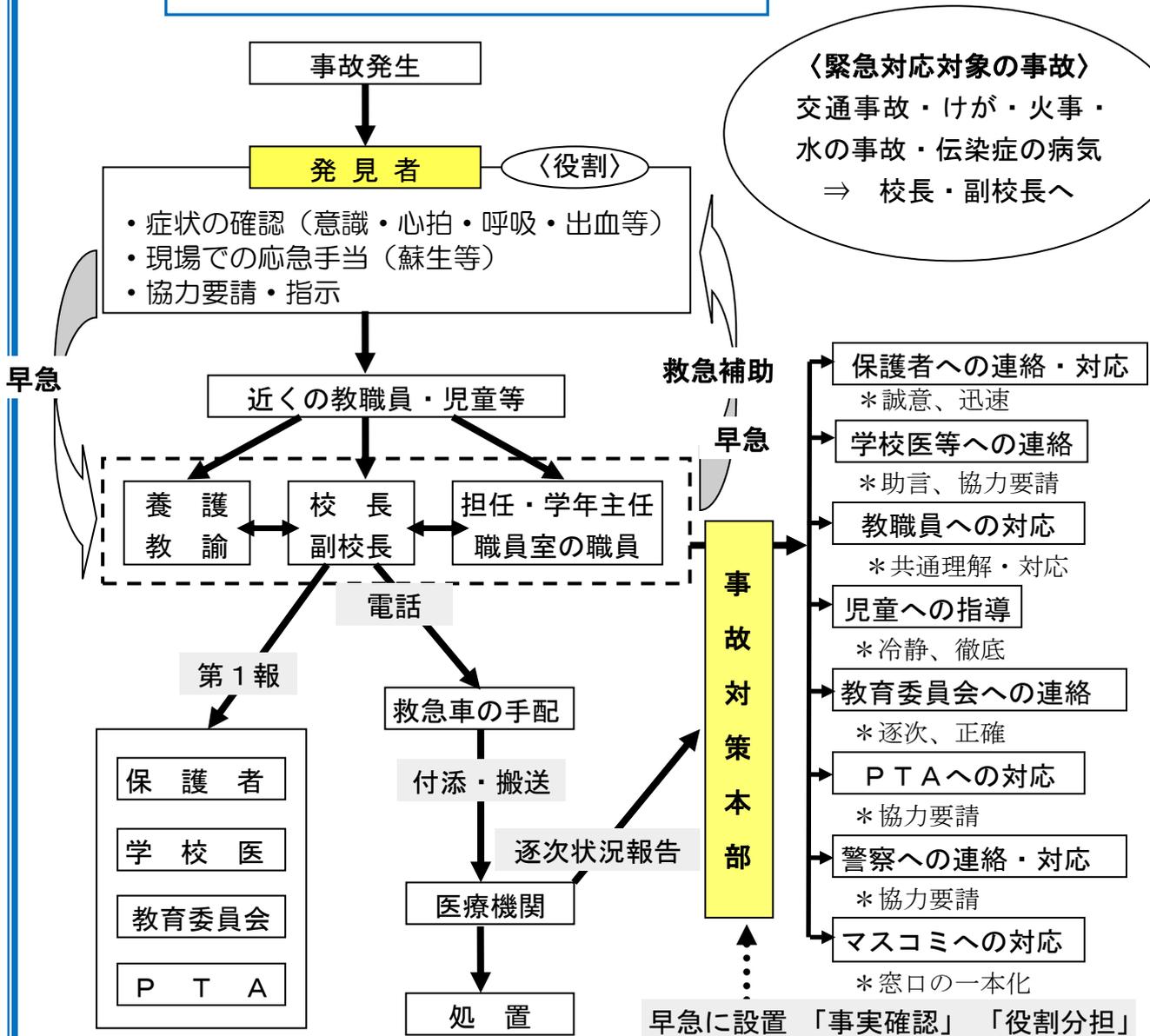




拝島第二小学校における重大事故発生時の緊急及び連絡体制

〈大前提〉

- 1 生命維持最優先（救急処置）
- 2 冷静で的確な判断と指示
- 3 迅速かつ正確な連絡



- 1 記録に残しておくこと。今後の予防的経営（リスクマネジメント）や事故対応に生かすこと。
- 2 事故対応についての反省（評価）に基づき、改善点を明確にして共通理解を図る。場面設定を変え、シミュレーションを実施する。時には、地域に返す。
- 3 本人（当該児童）への個別指導を実施する（要因が本人の側にもある場合への配慮、安全対応へのスキルアップ等）。
- 4 全校児童への安全指導を強化する。

CASE「放課後の大けが」

放課後に、子供が学校の遊具で遊んでいて、薬指を切断し、友達が保健室につれてきた。どのように対応したらよいか。

I こうした「指の切断」といった子供の生命に関わる事故の場合、そのけがの状況が最も重要な問題とされる。子供の生命を守るための緊急対応（最低最悪の場面を想定する）が第1である。

また、病院では、保護者の判断が必要となる場面が生じてくる。早急に、確実に、保護者と連絡をとらなければならない。

II 学校の日頃の安全対策や安全指導が適切に行われいたか否かについて振り返り、その状況や今後の方針等について、保護者に誠意をもって伝える必要がある。

どのような場合であろうと、子供のことを第1に考えた対応を怠れば、保護者が学校に不信感を抱くのは当然のことである。保護者との信頼関係が崩れてしまうことは、以後の子供の活動やそれを支える教師の指導・援助に影響を及ぼす。

III 他の子供が事故に関わっていた場合への配慮、マスコミ対応等、問題の修復や解決に向けて、学校や教師は多くの選択を迫られる。

状況の問題性を把握し、重要問題（子供の生命を守るための緊急対応）に力を注ぐ！ 問題解決や問題状況の修復に早急に適切に対応する！

事件・事故の状況に内在する問題性の分析

